

草津市立  
老上中学校  
学校だより  
R2(2020). 12. 2

# ★ 考 動

【校訓】



## 2学期人権学習について

老上中学校区では、老上教育総合推進事業（県学びの礎ネットワーク推進事業）の趣旨に基づき、校区の保育所やこども園・小学校・中学校・高等学校・会館・家庭・地域との細やかな連携のもと、部落差別をはじめとするあらゆる差別や今年は新型コロナウイルス感染症の流行にともなう偏見や誹謗中傷等を許さない態度の育成など、人権問題に関する問題解決に向けた取組を系統的に進めています。

1学期は、いじめ0（ゼロ）プロジェクトを行い、自分の日々の生活や、その中での言動を振り返りました。いじめはダメだとわかっているにもかかわらず実際には起こってしまうのはなぜでしょうか。それは、何がいじめになるのかがわかっていない、気づいていないからではないでしょうか。このことを一人ひとりが真剣に考えて、自分のことはもちろん周りの人のことも大切にしていかなければなりません。いじめをなくしていくことに継続して取り組んでいきましょう。

2学期は、人権感覚を高め、正しい理解・認識を培い、人権を尊重する実践的な態度を身につけることをめざして、部落問題についての正しい理解と認識をもつこと、命・人権を大切にす豊かな心を育むこと、全ての人と共に幸せに生きることについて学びを深めています。各学年の学習内容の概要は次のとおりです。また、12月1日（火）に校区の実践交流会を本校で開催し、1・2年生の人権学習の授業公開を行いました。

〔1年〕部落差別の起こりについて、歴史的な流れに沿って正しく知り、理解する。差別が広がり、現存する背景には人間の弱さが深く関わってきたことに気づき、差別を許さない心を持ち、これからの自分にできることを考える。

〔2年〕西光万吉さんの生き方や水平社宣言に込められている人々の願いや思いを通して、人間の尊厳や誇りについて理解を深める。差別を受けた人々の心の痛みや差別の厳しさを知るとともに、日常の生活の中での自身の生き方を見つめ、差別解消のための実践力を高める。

〔3年〕今なお現存する結婚差別があることを知り、差別の不合理性に憤りをもつとともに、結婚差別の解消に向けて明るい展望をもつ。身の周りにおける人権侵害の状況を考え、社会の一員として民主的な社会を実現するための展望をもつ。

## 3年生修学旅行(和歌山方面)を実施しました。

10月28日（水）・29日（木）に3年生の修学旅行を実施しました。新型コロナウイルス感染症の流行にともない、日程や内容を変更しての校外活動になりましたが、中学校生活の集大成となる行事として、集団行動の中で友人との交流を深めて仲間意識を高めるとともに、社会の場に応じたけじめや計画性のある行動のしかたを身につける機会となりました。訪問先の和歌山城や稲むらの火の館では、伝統や文化、命の尊さ、防災に向けた取組の大切さを体感しました。また、アドベンチャーワールドでは、動物とのふれあいや買物の時間を満喫しました。

バスでの移動中や昼食会場、宿泊ホテルでは、感染防止対策としてこまめに手指の消毒や検温を行い、ルールやマナーをしっかりと守って「考動」することができました。

< 3年生修学旅行：10月28日（水）・29日（木） >

